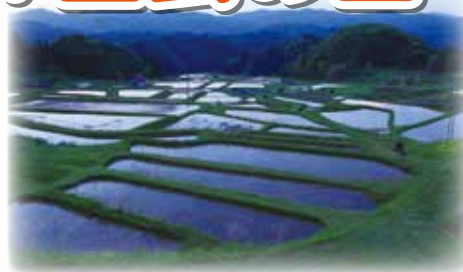


出雲の國・斐伊川サミット設立10周年記念事業

参加  
無料

# スローライフ・フォーラム in 出雲の國



出雲の國・斐伊川サミットは、斐伊川・神戸川流域の2市2町(出雲市・雲南市・奥出雲町・飯南町)の一体的な発展をめざすため、平成19年11月に発足しました。

このたび、出雲の國・斐伊川サミット設立10周年を記念し、出雲市長・雲南市長・奥出雲町長・飯南町長が、一堂に会し、スローライフといった新たな視点で、サミット圏域の10年後、その先を見据え、圏域ならではの「地方創生」について考えます。

日時

10月29日(日)  
13:30~16:30

場所

ビッグハート出雲  
自のホール

## プログラム

テーマ:『たたら文化・ふるさと創生一次の10年を考える』

- 13:30 開会(受付は13:00から)
- 13:40 基調講演「結びあう 分かちあう」  
神野直彦(日本社会事業大学学長・スローライフ学会学長)
- 14:30 わいわい談義報告
- 15:00 パネルディスカッション



神野直彦

### ■パネリスト(地元)

長岡秀人(出雲市長)  
速水雄一(雲南市長)  
勝田康則(奥出雲町長)  
山崎英樹(飯南町長)

### ■コーディネーター

増田寛也  
(野村総合研究所顧問・  
スローライフ学会会長)



増田寛也

### ■パネリスト(スローライフ学会)

齊藤 睦(地域総合研究所長) 坪井ゆづる(朝日新聞論説委員)  
早野 透(桜美林大学名誉教授) 野口智子(ゆとり研究所長)  
(神野直彦) (敬称略)

主催/2017スローライフ・フォーラムin出雲の國実行委員会、一般財団法人 自治総合センター

共催/出雲の國・斐伊川サミット、NPO法人スローライフ・ジャパン、スローライフ学会、公益財団法人ふるさと島根定住財団

後援/総務省、島根県、出雲市、雲南市、奥出雲町、飯南町、国立大学法人島根大学、公立大学法人島根県立大学

山陰中央新報社、島根日日新聞社、出雲ケーブルビジョン、ひらたCATV株式会社、雲南夢ネット、奥出雲町情報通信協会

おたすね/2017スローライフ・フォーラムin出雲の國実行委員会事務局(政策企画課内) ☎21-6612

※このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです。

※事前の申込は不要です。ご来場の際は、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

# 出雲の伝統工芸「高橋鍛冶製品」

出雲市には、豊かな自然と歴史に育まれた多くの優れた伝統工芸があります。作り手の方の思いとともに出雲の工芸を紹介します。

今回ご紹介するのは朝山地区で104年続く高橋鍛冶屋さんの刃物、鉄製品です。工房を訪ねると、硬い鉄をたたく四代目高橋勉さんの姿がありました。

## 製品ができるまで

火の中で軟鉄と鋼（はがね）をよく熱し、ホウ酸を混ぜた鉄粉を接着剤として軟鉄と鋼を接着します。

この技術は「わかし」と呼ばれ、県内では高橋さんのみが習得されています。

「わかし」は温度の見極めがとても重要で、軟鉄と鋼の温度が見た目で判断できるようにならなければ一人前にはなりません。習得には10年以上かかる技術ですが、高橋さんは育った環境と持ち前の感覚の良さで4～5年で習得されたそうです。

接着後、熱してはたたく作業を繰り返す、鉄を鍛えることで、丈夫な刃物が生み出されます。

## 作り手の思い

高橋さんは、「たくさんの方に本物を知っていただき、本当に切れる包丁はどんなものか、その包丁で切った野菜の味がどれだけ違うかを実感してほしい。」という思いで日々製品を作っておられます。



「日本のおみやげコンテスト」で入賞した花台（上写真）や一般家庭の表札、酒蔵のあんどん看板などのオリジナル製品も多く製作され、「お客様に、良かったよと言ってもらえることが一番の喜びです。」と語っておられました。



手しごとマップHP

- ◆ 工房見学、製作体験（パティナイフ、鉄皿）＊要事前予約（高橋鍛冶屋 ☎48-0885）
- ◆ 出店情報／毎週日曜10時～縁引寄市（出雲市駅高架下）にて製品販売・包丁研ぎ

おたずね／商工振興課 ☎21-6541

OH!

## 地産地消コーナー まいがな出雲!

### Vol.18 ～木材も地産地消!～

みなさんの家の柱や家具、お店の内装などに使われている木材は、どこで伐られて、どのような道をたどってきたのでしょうか?

今回は、市内の山林で、木を育て、出荷されている(有)やまと代表取締役の山本和正さんの山づくりを通じて、出雲市産木材の地産地消を紹介します。

今月の担当 森林政策課 ☎21-6996

#### ◎木を出荷するって?

木は、優良な木材として伐採できるまで、植栽後、下刈り※1、枝打ち※2、間伐※3などを行い、何十年もの時間と手間をかけて、育てる必要があります。

山本さんは、先祖代々から受け継がれてきた307haの山林を所有し、長い時間をかけて、丁寧に山林管理を行い、林業経営をされています。現在は、主に昭和20年代以降に植栽された、スギやヒノキなどの木（原木）を出荷されています。山本さんが大切に育て、出荷した原木は品質が高いと評判です。



(有)やまと 代表取締役  
山本和正さん(知井宮町)

- ※1 苗木を育てるための草刈
- ※2 節のない木材にするために枝を切る
- ※3 木の生長を良くし、山林を健全にするための間引き

#### ◎山林で伐った木はどうなるの?

木も、魚や野菜と同じように競りにかけられます。山本さんが伐採した原木も、(株)出雲木材市場へ出荷され、競りにかけられます。そして製材業者などが原木を購入し、製材したものが、みなさんが目にする、家の柱や家具の材料となっていきます。

#### ◎地域の木を使おう

木材は、生産された地域の気候や風土に合うと言われています。家を建てる時、家具を選ぶときなど、ぜひ、木材の生産者や生産地について考えてみましょう。



伐採の様子



(株)出雲木材市場での競りの様子